

「東日本大震災追悼・復興レセプション」での総領事スピーチ

2012年3月13日

昨年3月11日、東北地方太平洋沖で発生したマグニチュード9という我が国観測史上最大規模の地震と、それに伴う最大遡上高40メートル以上にも及ぶ大津波とによって、日本は未曾有の被害を受けました。この「東日本大震災」で全半壊した建物は37万戸余り、ピーク時の避難者数は約40万人、亡くなったり行方不明になった方は1万9千人以上に及びます。犠牲者の中には、宮城県と岩手県の小中学校で日本の子供たちに英語を教えていた2名のアメリカ人JETプログラム参加者も含まれています。

また、地震と津波による被害を受けて電源を失った東京電力福島第一原子力発電所では、原子炉の冷却ができなくなるという重大な事故が発生し、国際社会に大きな衝撃を与えました。

こうした甚大な被害にも拘わらず、日本国民は打ちひしがれることなく、被災直後から一丸となって復興に向けて努力を続けてきました。その結果、大震災から1ヶ月後には、被災地におけるインフラストラクチャーは一部を除いて正常化し、それに続いてサプライチェーンもほぼ復旧を果たしました。また、東京電力福島第一原子力発電所でも事故収束に向けた懸命の作業が続けられ、昨年7月には放射線量の着実な減少が、そして、12月16日には原子炉の「冷温停止状態」を始めとする多くの課題が達成されて、安定状態を確保することに成功しました。

この間、日本と日本国民は、国際社会から寄せられた数多くの支援によって勇気と力を与えられてきました。中でもアメリカ合衆国の政府、軍、そして数多くの民間の方々からいただいた温かく力強い支援は、私たち日本国民の大きなよりどころでした。

支援して下さった方々一人一人の名前をこの場で申し上げることはできませんが、迅速かつ大規模な

「トモダチ作戦」を展開し、厳しい条件下にも拘わらず骨身を惜しまず支援して下さった米軍関係者の皆さん、コロラド、ニューメキシコ、ユタ、ワイオミング各州政府、デンバー市をはじめとするロッキーマウンテン地域の数多くの市郡、米国赤十字社マイル・ハイ支部、米国産の食肉を提供し被災地で自ら炊き出しを行って下さった全米食肉輸出連合会関係者の皆さん、日米協会、コロラド日系人会や JACL をはじめとする当地の日系米人コミュニティの皆さん、シンプソン・メソジスト合同教会、山東三州仏教会、デンバー高山姉妹都市交流協会、デンバー・アカデミー・オブ・バレエ・カンパニー、フォートコリンズ・ロータリークラブ、日本文化関係団体及び武道団体、モルソン・クアーズ、数多くの日本食レストラン、コロラド日本語学校、デンバー日本語学校、そして手作りのクッキーやチョコレートの売り上げを寄付してくれたり、あるいは友達同士声を掛け合って義援金を提供してくれた当地の小学生や中学生の皆さんをはじめとする、すべての方々に対して、ここに、改めて心から感謝を申し上げます。

私たちが困難に直面したときにアメリカ合衆国の友人が示してくれたこの揺るぎない友情を、日本国民は決して忘れることはありません。

我が国の復興は着実に進展しています。現在、一部の規制地域を除いて、日本は震災前の日常生活を取り戻し、観光やビジネス、そして留学のために海外から来られる皆様を安全に迎えることができるようになりました。私は、機会があれば一人でも多くの皆さんに日本を訪れていただき、力強く復興を遂げる我が国の姿を、是非とも直接見て頂きたいと願うものです。

私たちは、東日本大震災によって、国際社会との「絆」がいかに重要であるかということ改めて深く認識しました。我が国は、大震災や原子力発電所の事故から得た経験と教訓を国際社会と共有するとともに、世界に向かって開かれた復興と再生を目指してこれからも努力を続けていく決意であることを、ここ

に改めて申し上げたいと思います。このプロセスで、日本は、防災、あるいは安全・環境・経済効率に配慮したエネルギーの安定供給といった地球規模の様々な課題を解決するために力を尽くしていきます。また、世界中からいただいた多くの支援に応えるためにも、日本は、地球上のあらゆる人間が人間らしく生きることができる社会を実現するとともに、国際社会が持続的かつ包括的に成長を達成していくことができるよう、これまで以上に積極的な国際協力を進めていきます。

私は、このプロセスにおいて、我が国にとって最も重要な同盟関係にある米国との揺るぎない関係がますます強固なものとなり、より一層深い友情で結ばれるようになるであろうことを心から確信するものです。

ありがとうございました。